

2021/7/15

柏の景気情報(令和3年6月分)

柏 商 工 会 議 所

(本件担当) 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
T E L : 04-7162-3305
F A X : 04-7162-3323
U R L : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（令和3年6月分）

○ 調査期間 : 令和3年6月25日 ~ 令和3年7月8日

○ 調査対象 : 柏市内129事業所及び組合にヒアリング

<産業別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	129	88	68.2%
建設	31	19	61.3%
製造	35	23	65.7%
卸・小売	38	28	73.7%
サービス	25	18	72.0%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1増加他の回答割合 - 3減少他の回答割合$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【令和3年6月の業況についての状況】

○ 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲19.3(前月水準▲17.3)となり、マイナス幅が2.0ポイント拡大した。

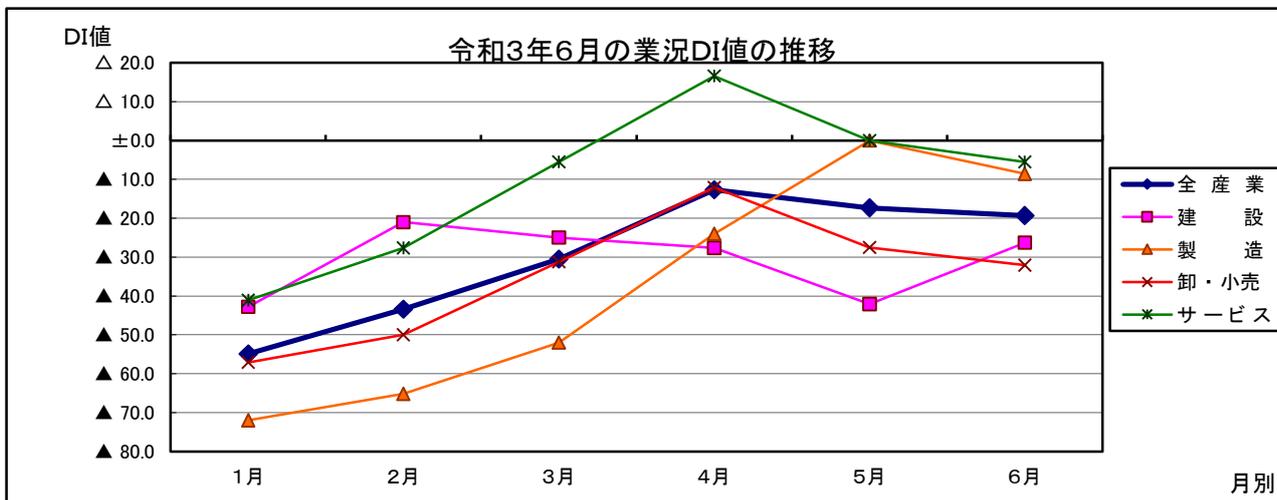
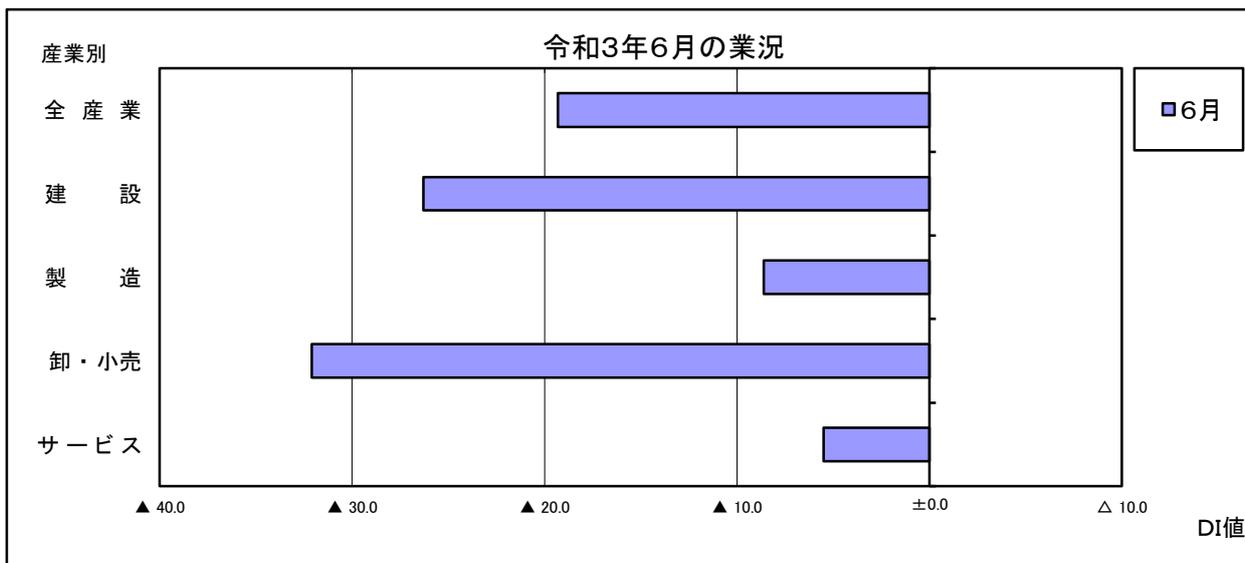
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲26.3(同▲42.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲8.6(同±0.0)、サービス業▲5.5(同±0.0)、卸小売業▲32.1(同▲27.5)である。

○ 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲20.4(前月水準▲19.5)となり、マイナス幅が0.9ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、建設業▲21.0(同▲26.3)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業±0.0(同△5.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲42.8(同▲41.3)、製造業▲8.6(同▲8.0)である。

令和3年6月業況DI値(前年同月比)の推移

	令和3年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲54.9	▲43.4	▲30.5	▲12.7	▲17.3	▲19.3	▲20.4(▲19.5)
建設	▲42.8	▲21.0	▲25.0	▲27.7	▲42.1	▲26.3	▲21.0(▲26.3)
製造	▲72.0	▲65.2	▲52.0	▲24.0	±0.0	▲8.6	▲8.6(▲8.0)
卸・小売	▲57.1	▲50.0	▲31.2	▲12.1	▲27.5	▲32.1	▲42.8(▲41.3)
サービス	▲41.1	▲27.7	▲5.5	△16.6	±0.0	▲5.5	±0.0(△5.2)



【令和3年6月の売上についての状況】

○ 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲13.6(前月水準▲16.3)となり、マイナス幅が2.7ポイント縮小した。

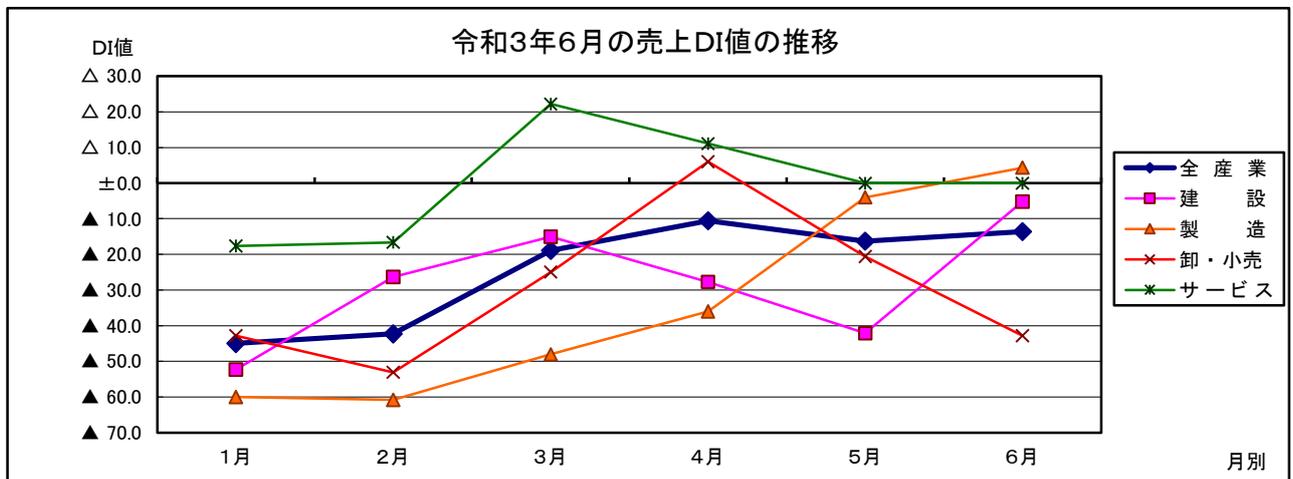
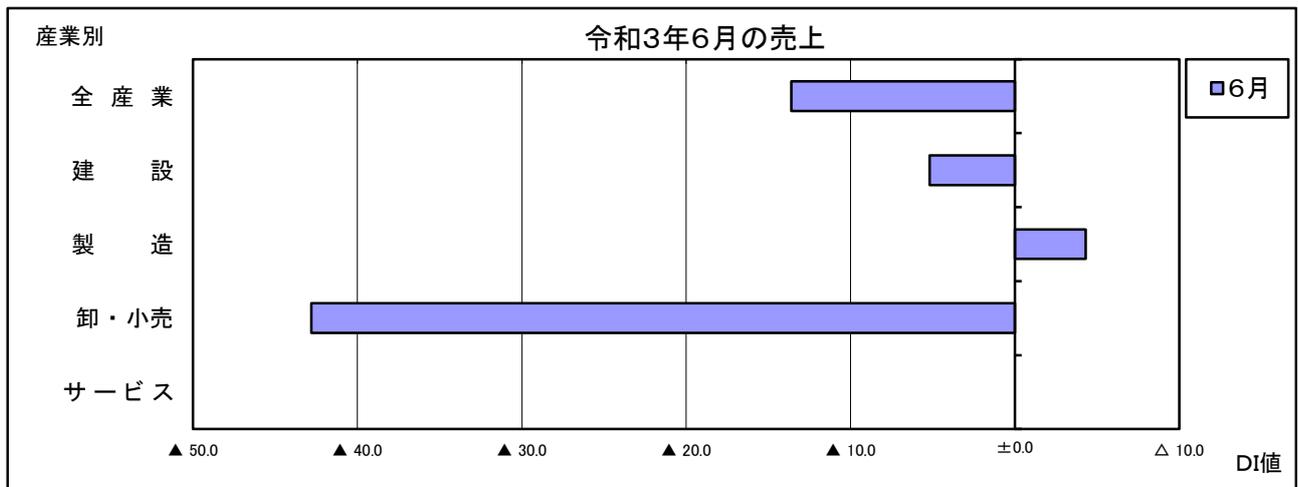
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、製造業△4.3(同▲4.0)である。マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲5.2(同▲42.1)である。変らない業種は、サービス業±0.0(同±0.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲42.8(同▲20.6)である。

○ 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲9.0(前月水準▲10.8)となり、マイナス幅が1.8ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、製造業△4.3(同▲12.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業△16.6(同△21.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲10.5(同▲5.2)、卸小売業▲35.7(同▲34.4)である。

令和3年6月の売上DI値(前年同月比)の推移

	令和3年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲45.0	▲42.3	▲18.9	▲10.6	▲16.3	▲13.6	▲9.0(▲10.8)
建設	▲52.3	▲26.3	▲15.0	▲27.7	▲42.1	▲5.2	▲10.5(▲5.2)
製造	▲60.0	▲60.8	▲48.0	▲36.0	▲4.0	△4.3	△4.3(▲12.0)
卸・小売	▲42.8	▲53.1	▲25.0	△6.0	▲20.6	▲42.8	▲35.7(▲34.4)
サービス	▲17.6	▲16.6	△22.2	△11.1	±0.0	±0.0	△16.6(△21.0)



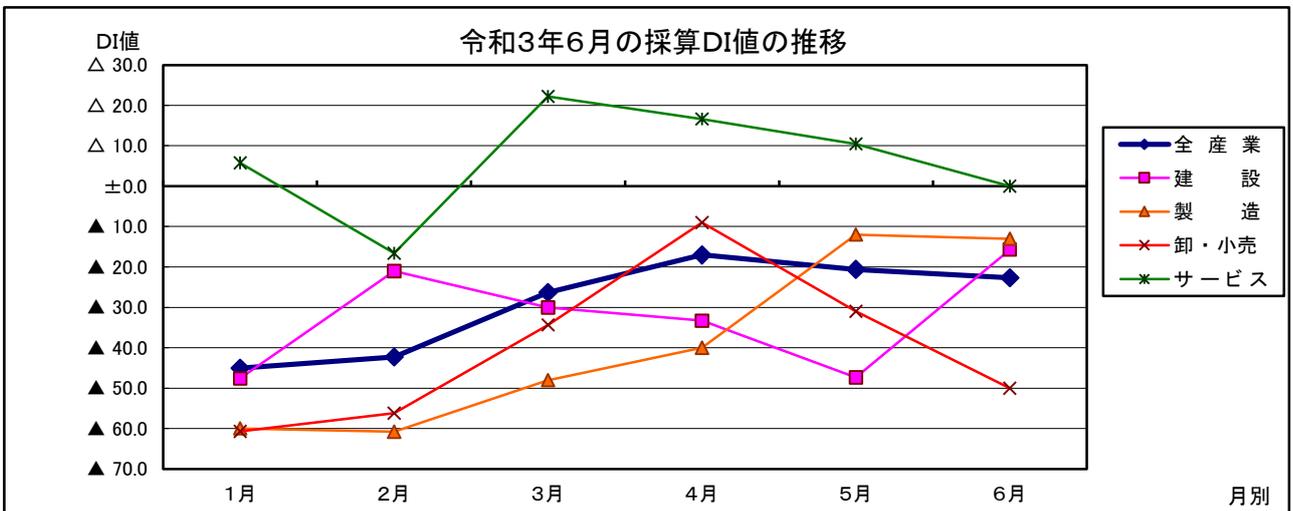
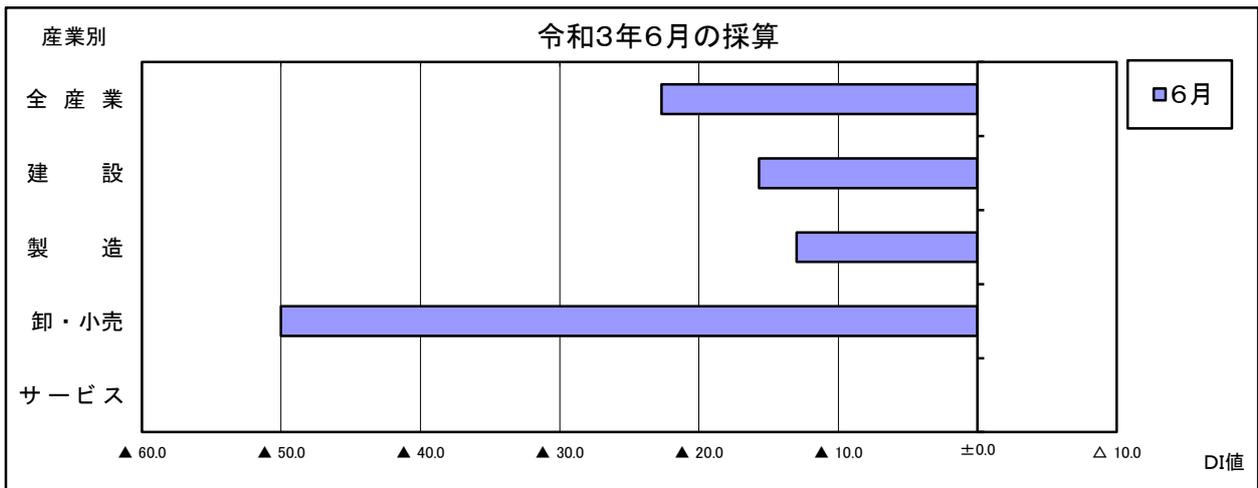
【令和3年6月の採算についての状況】

○ 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲22.7(前月水準▲20.6)となり、マイナス幅が2.1ポイント拡大した。
 業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲15.7(同▲47.3)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業±0.0(同△10.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲50.0(同▲31.0)、製造業▲13.0(同▲12.0)である。

○ 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲13.6(前月水準▲10.8)であり、マイナス幅が2.8ポイント拡大する見通しである。
 業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業±0.0(同▲4.0)である。変らない見通しの業種は、建設業▲15.7(同▲15.7)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業△5.5(同△21.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲35.7(同▲34.4)である。

令和3年6月の採算DI値(前年同月比)の推移

	令和3年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲45.0	▲42.3	▲26.3	▲17.0	▲20.6	▲22.7	▲13.6(▲10.8)
建設	▲47.6	▲21.0	▲30.0	▲33.3	▲47.3	▲15.7	▲15.7(▲15.7)
製造	▲60.0	▲60.8	▲48.0	▲40.0	▲12.0	▲13.0	±0.0(▲4.0)
卸・小売	▲60.7	▲56.2	▲34.3	▲9.0	▲31.0	▲50.0	▲35.7(▲34.4)
サービス	△5.8	▲16.6	△22.2	△16.6	△10.5	±0.0	△5.5(△21.0)



【令和3年6月の仕入単価についての状況】

○ 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲42.0(前月水準▲39.1)となり、マイナス幅が2.9ポイント拡大した。

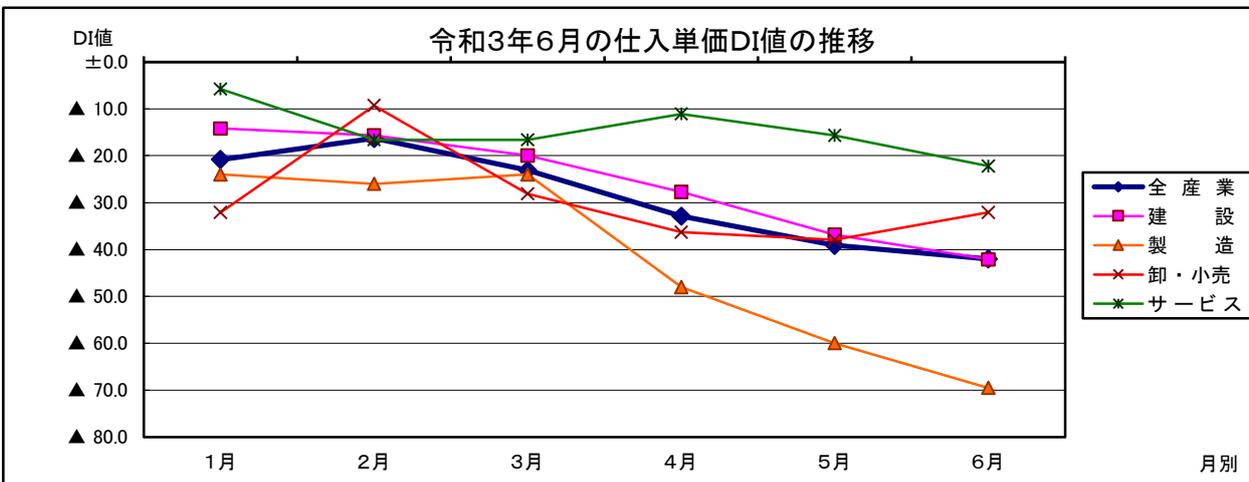
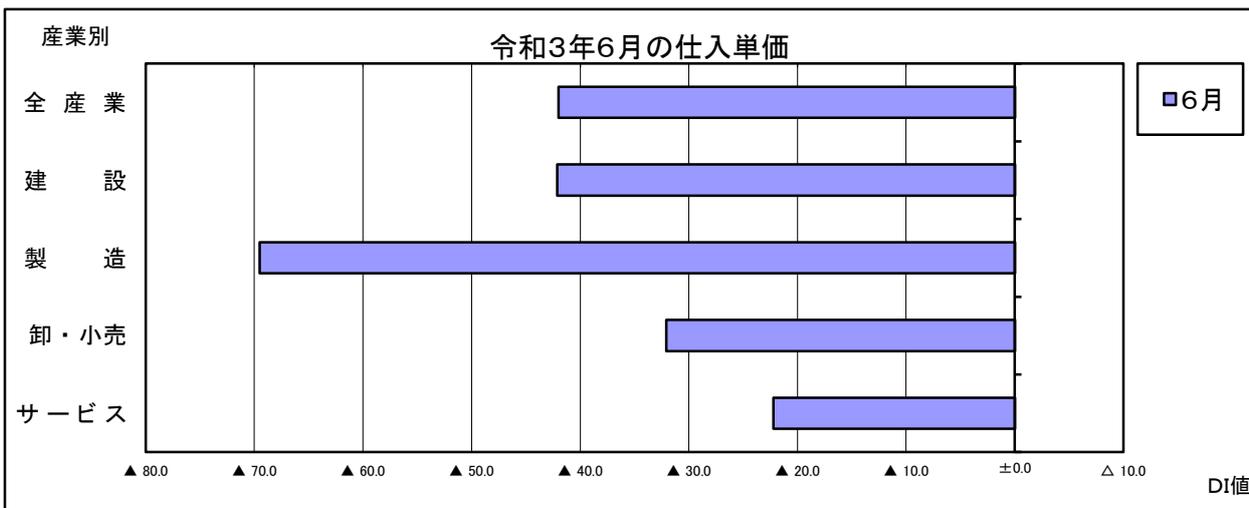
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲32.1(同▲37.9)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲69.5(同▲60.0)、サービス業▲22.2(同▲15.7)、建設業▲42.1(同▲36.8)である。

○ 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲40.9(前月水準▲31.5)となり、マイナス幅が9.4ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲65.2(同▲52.0)、建設業▲42.1(同▲31.5)、卸小売業▲32.1(同▲24.1)、サービス業▲22.2(同▲15.7)である。

令和3年6月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	令和3年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲20.8	▲16.3	▲23.1	▲32.9	▲39.1	▲42.0	▲40.9(▲31.5)
建設	▲14.2	▲15.7	▲20.0	▲27.7	▲36.8	▲42.1	▲42.1(▲31.5)
製造	▲24.0	▲26.0	▲24.0	▲48.0	▲60.0	▲69.5	▲65.2(▲52.0)
卸・小売	▲32.1	▲9.3	▲28.1	▲36.3	▲37.9	▲32.1	▲32.1(▲24.1)
サービス	▲5.8	▲16.6	▲16.6	▲11.1	▲15.7	▲22.2	▲22.2(▲15.7)



【令和3年6月の従業員についての状況】

○ 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△4.5(前月水準△10.8)となり、プラス幅が6.3ポイント縮小した。

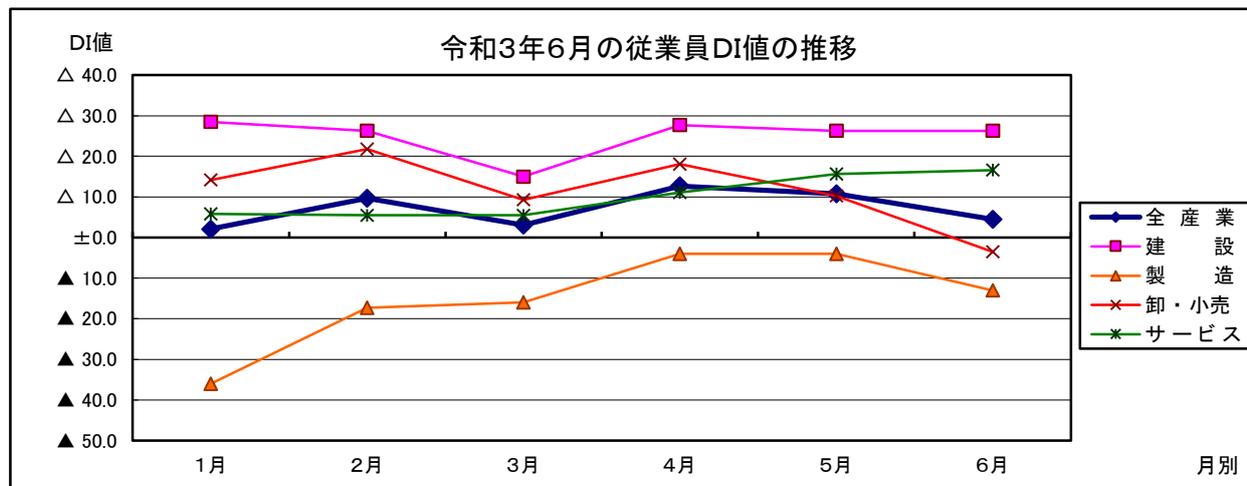
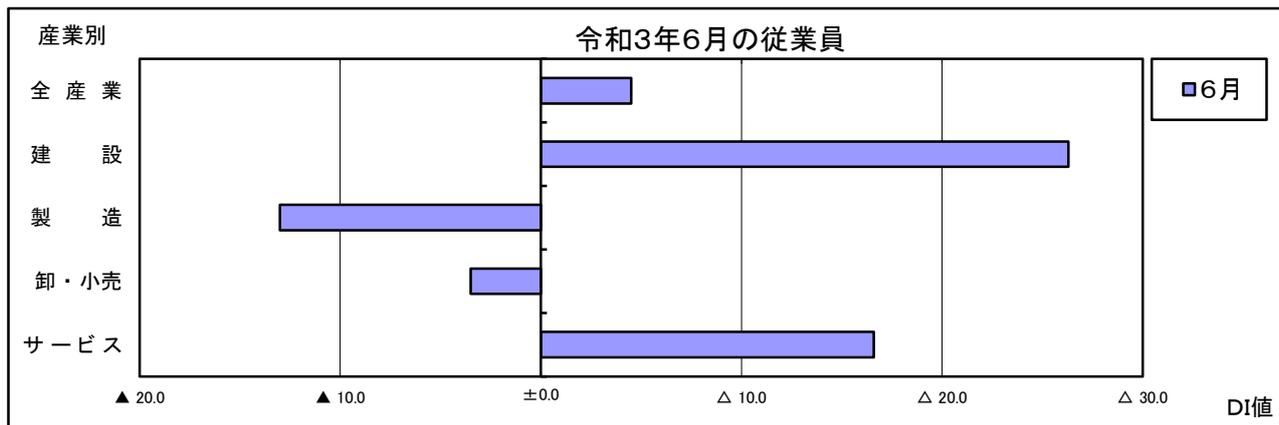
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△16.6(同△15.7)である。変らない業種は、建設業△26.3(同△26.3)である。プラスからマイナスに転じた業種は、卸小売業▲3.5(同△10.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲13.0(同▲4.0)である。

○ 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、△10.2(前月水準△8.6)となり、プラス幅が1.6ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、建設業△31.5(同△26.3)である。マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、製造業△4.3(同▲12.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業△16.6(同△21.0)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、卸小売業▲3.5(同△6.8)である。

令和3年6月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	令和3年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	△2.1	△9.7	△3.1	△12.7	△10.8	△4.5	△10.2(△8.6)
建設	△28.5	△26.3	△15.0	△27.7	△26.3	△26.3	△31.5(△26.3)
製造	▲36.0	▲17.3	▲16.0	▲4.0	▲4.0	▲13.0	△4.3(▲12.0)
卸・小売	△14.2	△21.8	△9.3	△18.1	△10.3	▲3.5	▲3.5(△6.8)
サービス	△5.8	△5.5	△5.5	△11.1	△15.7	△16.6	△16.6(△21.0)



【令和3年6月の資金繰りについての状況】

○ 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲9.0(前月水準▲16.3)となり、マイナス幅が7.3ポイント縮小した。

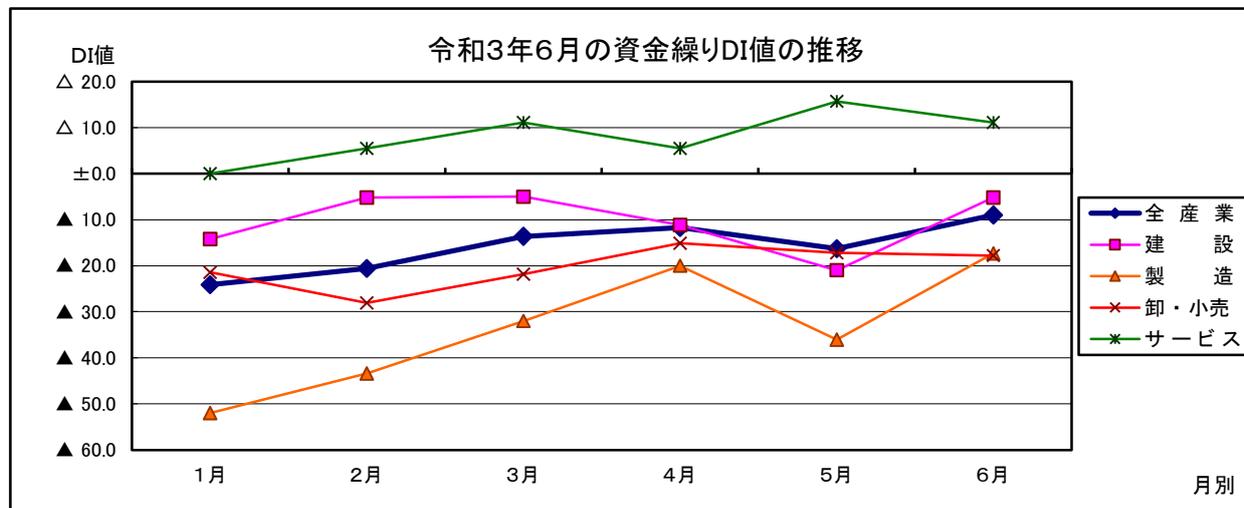
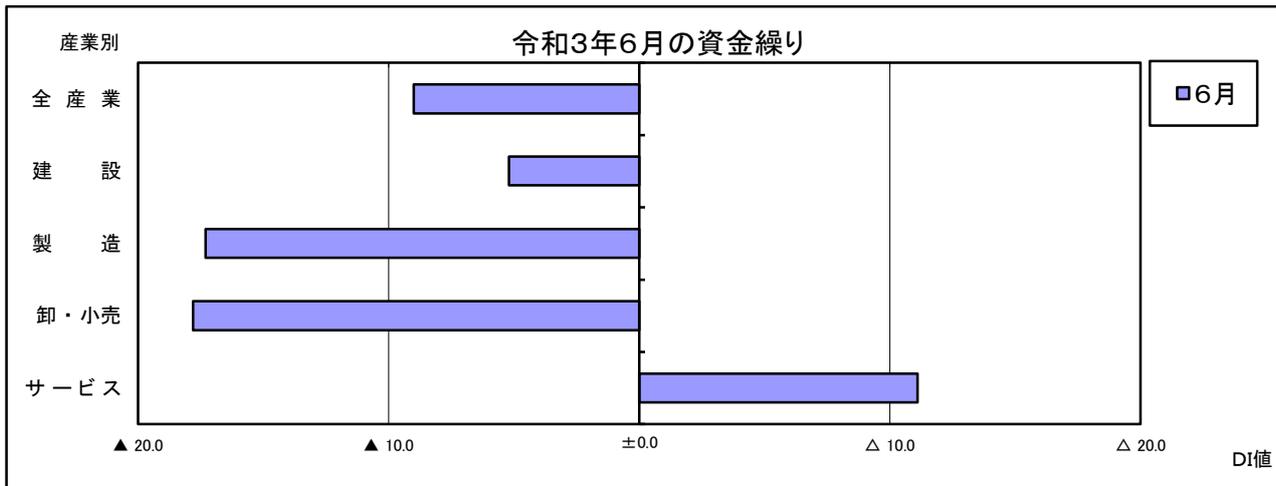
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲17.3(同▲36.0)、建設業▲5.2(同▲21.0)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業△11.1(同△15.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲17.8(同▲17.2)である。

○ 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲15.9(前月水準▲17.3)となり、マイナス幅が1.4ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲21.4(同▲37.9)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、サービス業▲5.5(同△5.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲15.7(同▲10.5)、製造業▲17.3(同▲16.0)である。

令和3年6月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	令和3年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲24.1	▲20.6	▲13.6	▲11.7	▲16.3	▲9.0	▲15.9(▲17.3)
建設	▲14.2	▲5.2	▲5.0	▲11.1	▲21.0	▲5.2	▲15.7(▲10.5)
製造	▲52.0	▲43.4	▲32.0	▲20.0	▲36.0	▲17.3	▲17.3(▲16.0)
卸・小売	▲21.4	▲28.1	▲21.8	▲15.1	▲17.2	▲17.8	▲21.4(▲37.9)
サービス	±0.0	△5.5	△11.1	△5.5	△15.7	△11.1	▲5.5(△5.2)



【令和3年6月の調査結果のポイント】

《全産業DIは2か月連続で悪化。まん延防止等重点措置の規制除外になるも、感染症動向に強い懸念あり》

6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲19.3(前月水準▲17.3)となり、マイナス幅が2.0ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲26.3(同▲42.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲8.6(同±0.0)、サービス業▲5.5(同±0.0)、卸小売業▲32.1(同▲27.5)である。

柏市は6月21日にまん延防止等重点措置のエリアから外れた状況下、DI値が改善した建設業からは、公共工事の安定した受注、営業努力による売上増加、在宅勤務増加による新築需要についてコメントがあった。DI値の悪化したその他の業種からは、特に製造業の多くで原材料の高騰や半導体不足、ホテル業からは昨年のGotoトラベルのような施策なく苦戦の声があった。先行きDIは▲20.4(前月比▲1.1)と悪化を見込む。再びまん延防止等重点措置の対象区域となり、感染症動向に先行き不透明感は強い。

【建設業】からは、「公共工事関連の工事が多いのでコロナの影響は少なく、営業努力によって昨年度より売上が増加(塗装工事)」、「在宅勤務が増え新築需要が増加(職別工事)」、「職人が体を壊し景況悪化。畳工場内の機械化を真剣に検討(畳)」、「ウッドショックによる木材高騰に加え、オリンピック時期になると、毎回、原油や鋼材の値上がりがあり、経営への負担が大きい(とび)」、「今は政府が中小零細企業を応援してくれているが、応援が切れた時が一番問題。その時は必ず来るので、少々のブレーキにひるまないアクセル力が必要だと思う(一般土木建築工事)」などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「設備投資に予算が回ってきた感じがあるが、中国経済・EV・5G・半導体の好調と発展途上国のコロナの影響で、原材料は高騰、半導体は不足し、注文通りの生産ができない(機械・同部品)」、「飲食店の酒類提供自粛が響き、一部の製造ラインを停止し、昨年4～6月以来の「自宅待機」を実施。雇用調整助成金の申請を予定。酒類提供が再開されたが、なかなか先は見えない(酒類)」、「一部製品で受注が増加しているが、材料調達が難しく納期遅延に。新入社員を迎え、よい緊張感が出てきた。5S活動を進め収益改善につなげたい(金属製品)」、「自動車関連は半導体不足により大幅な減産。原材料高騰。人材不足、生産性拡大、デジタル化、働き方改革、BCPなど課題は山積み(金属系材製品)」、「原油の相場により原料の値上げが続いている(プラスチック製品)」、「底は脱し右肩上がりに。オリンピック開催中・後のコロナの影響が心配。ワクチンに期待(鉄鋼)」、「昨年4～5月の売上に比べ今年は大分回復したが、コロナ以前と比べるとマイナス。働き方改革法の対応の為、昨年からペーパーレスやIT化、情報の共有化等、生産性向上を目指し業務改革を進めているが、対応できる社員とできない社員が分かれてしまった。コロナも影響し、できない社員にとっては大きなストレスが感じられる(自動車付属品)」などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「規制が外れて飲食店を中心に活気が戻ってきたが、感染者増加による規制の繰り返しが心配(各種商品小売)」、「原材料の値上げが続くが、特に鶏卵の高騰が影響大(洋菓子店)」、「好調だった前期に比べて減収(建築材料卸売)」、「飲食店の復活の兆しがみえない。テイクアウトや量販店への販売は堅調でバランスを保っている。使える補助金は活用していきたい(農畜産物・水産物卸売)」、「自粛環境と梅雨時の悪天候により、厳しい状況(各種食料品小売)」、「コロナが終息しても生活パターンは異なるものになる。外出は減るだろうし、飲食店へ行く機会も減る。中途半端な仕事をしていただけでは生き残れないと感じている(各種食料品小売)」などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「修学旅行の延期により、夏期講習の日程を急遽変更。また、オリンピックで柏の葉運動場が使えず子どもたちの大会予定が変更になるなど、生徒や親が振り回されている(学習塾)」、「好調な会社と不調な会社が明確に分かれてきた。全体としては、少しずつ悪い(税理士)」、「出張減少による宿泊減、酒類提供の自粛、宴会、レストランの利用減が響き、売上は昨年とほぼ変わらず。ワクチン接種状況により利用客の増加は見込める。昨年はGoToトラベルで国内観光客の宿泊増加が見られたが、今年度は代わるものがなく苦戦(ホテル)」、「反響数が多く、販売も好調。市場としては売り物件が減少し、価額も値上がり気味(不動産管理)」、「賃貸住宅の解約案件が増加、今期春までの活気なし。今月1本の借入が終了。キャッシュポジションを厚くしたいが、売上伸び悩み(不動産賃貸・管理)」、「お酒提供の制限がある中での飲食店の営業は死活問題で、休業とほぼ同じような状況(日本料理)」などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
1月	▲54.9	▲42.8	▲72.0	▲57.1	▲41.1
2月	▲43.4	▲21.0	▲65.2	▲50.0	▲27.7
3月	▲30.5	▲25.0	▲52.0	▲31.2	▲5.5
4月	▲12.7	▲27.7	▲24.0	▲12.1	△16.6
5月	▲17.3	▲42.1	±0.0	▲27.5	±0.0
6月	▲19.3	▲26.3	▲8.6	▲32.1	▲5.5
見通し	▲20.4	▲21.0	▲8.6	▲42.8	±0.0

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 13.6	▲ 9.0	▲ 22.7	▲ 13.6	▲ 42.0	▲ 40.9	△ 4.5	△ 10.2
建設	▲ 5.2	▲ 10.5	▲ 15.7	▲ 15.7	▲ 42.1	▲ 42.1	△ 26.3	△ 31.5
製造	△ 4.3	△ 4.3	▲ 13.0	±0.0	▲ 69.5	▲ 65.2	▲ 13.0	△ 4.3
卸・小売	▲ 42.8	▲ 35.7	▲ 50.0	▲ 35.7	▲ 32.1	▲ 32.1	▲ 3.5	▲ 3.5
サービス	±0.0	△ 16.6	±0.0	△ 5.5	▲ 22.2	▲ 22.2	△ 16.6	△ 16.6

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 19.3	▲ 20.4	▲ 9.0	▲ 15.9
建設	▲ 26.3	▲ 21.0	▲ 5.2	▲ 15.7
製造	▲ 8.6	▲ 8.6	▲ 17.3	▲ 17.3
卸・小売	▲ 32.1	▲ 42.8	▲ 17.8	▲ 21.4
サービス	▲ 5.5	±0.0	△ 11.1	▲ 5.5

令和3年6月CCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲19.3に対し、「CCI-LOBO」が▲26.7で柏の方がマイナス幅が7.4ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、卸小売業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業である。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲13.6に対し、「CCI-LOBO」が▲18.7で柏の方がマイナス幅が5.1ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、サービス業であり、建設業、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業である。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲22.7に対し、「CCI-LOBO」が▲25.2で柏の方がマイナス幅が2.5ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業であり、10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲42.0に対し、「CCI-LOBO」が▲38.0で柏の方がマイナス幅が4.0ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業であり、建設業は10ポイント以上悪い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業であり、製造業は10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△4.5に対し、「CCI-LOBO」が△9.1で柏の方がプラス幅が4.6ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業であり、製造業、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲9.0に対し、「CCI-LOBO」が▲17.8で柏の方がマイナス幅が8.8ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、卸小売業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業である。

【令和3年6月業種別業界内トピックス】

業種別	概況	トピック	業種
建設業	コロナによる不景気のおおりは、民間企業発注案件の減少につながっている。外出が少なくなることで消費は減少し、経済活動に大きな支障をきたしているのは明白である。その中でもネット通販やそれに関連している企業は業績が伸びているだろうが、いつその余波を食らうか心配であるため、企業からの支出は控えている様子である。その流れをくみ、個人消費者が更に控えることで、お金の流れは悪くなっている。弊社は公共工事に関連した工事が多く、そのおおりは少なく、営業努力によって昨年度より売上を伸ばすことができた。	売上伸長	塗装工事業
	在宅勤務が増え、新築需要が増えている。12月頃までは続くだろうか。	在宅勤務増加による新築需要増加	職別工事業
	景況が悪化している要因は職人さんが体を壊している為。量工場内の機械化を真剣に考えている。	工場の機械化	量工事請負・量製造販売業
	ウッドショックによる木材が高騰している。また、原油及び鋼材の値上がり、経営に負担が大きい。	ウッドショック 原油、鋼材値上げ	とび
コロナ禍も1年以上になり、直接関連する企業はともかく、それ以外の会社は当然のごとく対処しており、売上高、採算ともに向上しつつあると思う。今は政府が中小・零細企業まで応援してくれているが、この応援が切れた時が一番問題。その時は必ず来るので、少々のブレーキにひるまないアクセル力が必要だと思う。	政府のコロナ支援終了後が課題	一般土木建築工事業	
製造業	全体的に設備投資に予算が回ってきているようであるが、中国経済・EV・5G・半導体の好調、発展途上国のコロナの影響があり、原材料は値上がり半導体は不足しており、注文が入っても思うように生産が出来ない状況である。	原材料の値上げ 半導体不足	機械・同部品製造業
	新型コロナウイルスの影響を受けて化粧品容器(特に口紅容器)の需要が回復せず、苦戦が続く。頼みの医療品容器もコロナ対策が優先されて弊社部門は後回しにされてしまう。	化粧品容器需要回復せず	プラスチック加工
	緊急事態宣言及びまん延防止特別措置により、飲食店での酒類提供の自粛が響き、6月についても業務用商材を中心に非常に厳しい状況であった。需要の減少により、一部の製造ラインが停止せざるをえなくなり、昨年の4～6月以来となる「自宅待機」を実施した。そのため、雇用調整助成金の申請を実施する予定である。6月21日より時間の制限等はあるが、飲食店での酒類提供が再開されたため、徐々に製造数量は戻る見込みであるが、新型コロナウイルスの感染再拡大が起こった場合、また厳しい状況になる。なかなか先は見えない。	酒類提供自粛の影響 雇用調整助成金申請 先行き不透明	酒類製造業
	昨年は5月から売上が激減したので一昨年対比で見ている。一部製品では受注が増加して売上高が見込めるが、材料調達に難しいものがあり納期遅延となるのは先月と同じである。新入社員を迎えて技術の伝承、受持ち部門変更など社内により緊張感が出てきた。5S活動をより積極的にすすめて収益改善につなげてきた。	一部受注増加 材料不足 5S活動	金属製品
	半導体関連は引き続き好調。自動車関連は半導体不足により大幅な減産。課題は原材料の大幅な高騰と、人手不足、人材の採用が困難な事。中小企業、特に製造業の人手不足は深刻。生産性拡大、デジタル化、働き方改革、人材不足、BCP等、課題は山積みである。	半導体好調 自動車関連減産 原材料高騰、不足 人材不足	金属素形材製品製造業
	原油の相場により原料の値上げが続いている。	プラスチック原料値上げ	プラスチック製品製造業
	新型コロナウイルス前までの水準にはまだ及ばないが、底は脱し右肩上がりになってきた感がある。オリンピック開催中・後の新型コロナウイルスの影響がどの様になるか心配。今の段階では、ワクチンに期待するしかない感がある。	先行き不透明 ワクチン期待	鉄鋼業
	新型コロナウイルスによる影響があり。	新型コロナウイルスの影響	織物業
	新型コロナウイルスの影響で、売上高は昨年の4～5月の落ち込みがひどく、今年は大分回復したが、コロナ禍以前と比較すると未だマイナスの状況である。働き方改革法の対応の為、昨年からはペーパーレスやIT化、情報の共有化等、生産性向上のため業務改革を進めているが、対応出来る社員と出来ない社員がはっきりと分かれてしまい、出来ない社員にとってはコロナの影響もあり、かなりのストレスとなっていることが感じられる。	一昨年比売上減 生産性向上における業務改革の 弊害	自動車付属品製造業
	卸・小売業	好調だった前期に比較して減収見込み。	減収見込み
規制が外れて徐々に飲食店を中心に活気が戻ってきた。感染者の増加により規制の繰り返しに心配。		まん延防止重点措置解除の影響	各種商品小売業
相変わらず原材料の値上げが相次ぐが、特に鶏卵らの高騰が影響大。		鶏卵値上げ	洋菓子店
飲食店は近郊店はもちろん、全国的にも復活の兆しがみえない。今年いっぱいこんな感じではないだろうか。一方でテイクアウトや量販店での販売量は堅調で何とかバランスを保っている。外食、レジャーの面が本当に復調しないと飲食卸としてはまだ1年前後厳しい経営が待っている気がする。中小企業にはビックチャンスな補助金などもでているので、活用できるものはしていきたい。		テイクアウト、量販店販売量堅調 補助金の活用	農畜産物・水産物卸売業
新型コロナウイルスによる自粛環境と梅雨時の悪天候により、厳しい状況である。	外出自粛と悪天候により不況	各種食料品小売業	
コロナが終息しても生活パターンは以前と違うものになっていくような気がする。外出は減るだろうし、飲食店へ行く機会も減る。中途半端な仕事をしていたのでは生き残れないと感じている。	生活パターンの変化	各種食料品小売業	
サービス業	会議所会員がワクチンを早く打てるメリットを受けたい。	中小企業のワクチン共同接種	不動産賃貸業
	6月に予定されていた修学旅行が8月に延期になり、夏期講習の日程を急遽変更せざるをえなくなった。また、オリンピックの影響で柏の葉運動場が使えないとのことで、子どもたちの最後の大会のスケジュールも大幅な変更を余儀なくされている。コロナだけでも大変なのに、オリンピックの強硬開催で、生徒も親も振り回されている。いったい誰のためのオリンピックなのかと、多くの親や生徒が嘆いている。	オリンピック開催による影響	学習塾
	好調な会社と不調な会社に明確に分かれてきました。全体としては、少しずつ悪くなってきている。	K字回復	税理士
	現況は好転。	好況	ソフトウェア業
	東京都の緊急事態宣言、千葉県のみん延防止等重点措置の影響で出張が減少し宿泊減、酒類提供の自粛、営業時間の短縮による宴会、レストランの利用減等大きく響き、売上は昨年とほぼ変わらなかった。7月以降も状況が大きく変わる事は無いと見ているが、ワクチン接種の進捗により利用客の増加は見込める。宿泊に関しては昨年はGoToトラベルがあり、国内観光客など宿泊の増加傾向は見られたが、今年度はそれに代わるものは無く苦戦を強いられる。	出張減少による宿泊客減少 レストラン利用客減少 ワクチン接種への期待	ホテル
	現在はお客様からの反響数も多く、販売も好調。市場としては売り物件が減少している。また、価額も値上がり気味。今後の見通しとしては、コロナ禍の影響がどのようになるかが不透明。	反響数、販売好調 先行き不透明	不動産管理業

【令和3年6月業種別業界内トピックス】

<p>賃貸住宅の解約案件が増加し、今季春までの活気がない。今月1本の借入が終了した。キャッシュポジションを厚くしたいが、売上が伸び悩んでいる。</p>	<p>賃貸住宅の解約増加 売上停滞</p>	<p>不動産賃貸・管理業</p>
<p>お酒提供の制限のある中での営業は、駅近くの飲食店のほとんどにとって死活問題で、休業とほぼ同じような状況。</p>	<p>酒類提供自粛の影響</p>	<p>日本料理</p>

令和3年6月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 19.3	 ▲ 26.3	 ▲ 8.6	 ▲ 32.1	 ▲ 5.5
CCI-LOBO	 ▲ 26.7	 ▲ 19.8	 ▲ 14.6	 ▲ 41.8	 ▲ 30.6

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 13.6	 ▲ 5.2	 4.3	 ▲ 42.8	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 18.7	 ▲ 16.6	 ▲ 5.6	 ▲ 37.5	 ▲ 21.0

外食、レジャーの面が本当に復調しないと飲食卸としてはまだ1年前後厳しい

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 22.7	 ▲ 15.7	 ▲ 13.0	 ▲ 50.0	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 25.2	 ▲ 17.8	 ▲ 16.9	 ▲ 37.0	 ▲ 31.3

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 42.0	 ▲ 42.1	 ▲ 69.5	 ▲ 32.1	 ▲ 22.2
店のほとんど	 ▲ 38.0	 ▲ 53.9	 ▲ 46.0	 ▲ 28.4	 ▲ 25.0

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 4.5	 26.3	 ▲ 13.0	 ▲ 3.5	 16.6
CCI-LOBO	 9.1	 27.4	 4.1	 9.1	 5.2

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 9.0	 ▲ 5.2	 ▲ 17.3	 ▲ 17.8	 11.1
CCI-LOBO	 ▲ 17.8	 ▲ 4.7	 ▲ 12.9	 ▲ 23.2	 ▲ 28.2

CC I - L O B O

商工会議所早期景気観測(6月速報)

調査期間：2021年6月15日～21日

調査対象：全国の337商工会議所が2,668企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、長引く活動制約から5カ月ぶりに悪化。先行きは、期待感伺えるも、厳しい見方崩れず

6月の全産業合計の業況DIは、▲26.7と、前月から▲1.7ポイントの悪化。米国・中国など海外経済回復に伴う需要増が続く半導体・電子部品関連や自動車関連の製造業のほか、防災・減災を中心とする公共工事に下支えされた建設業が堅調に推移した。一方、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の実施に伴い長引く活動制約が足かせとなつている小売業や観光関連のサービス業は、業況改善が見通せないことから、低調な動きが続いている。また、相次ぐ食料品の値上げや鉄鋼などの原材料費上昇によるコスト増加が小売業・卸売業などを中心に幅広い業種で業況の押し下げ要因となつており、中小企業の景況感には鈍さが見られる。

先行きについては、先行き見通しDIが▲26.8(今月比▲0.1ポイント)と悪

化を見込む。ワクチン接種の加速化に伴う経済活動正常化や観光需要の回復のほか、東京オリンピック・パラリンピックの開催による経済効果に期待する声が聞かれる。一方、活動制約の長期化に伴う製品・サービスの受注・売上減少による業績悪化の継続や、原油価格を含む原材料費の上昇による採算悪化への懸念などの不透明感は拭えず、中小企業においては、先行きに対して依然として厳しい見方が続く。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

業種別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、卸売業、小売業で悪化、建設業、製造業は横ばい、その他の業種で改善した。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「ウッドショックで木材の価格が高騰しているほか、入手も困難になつており、住宅工事を受注しても作業を進められないケースが出てきている」(一般工事業業、銅ベースが上昇している影響で電線・ケーブルの仕入価格が上昇しており、採算を圧迫している)(電気工事業業)

【製造業】「世界的な半導体業界の活況から、半導体製造装置部品の売上が増加傾向にある」(計量器測定器製造業)、「卵や小麦粉などの原材料の仕入れ価格が上昇しており、採算確保に苦戦している」(菓子製造業)

【卸売業】「夏に向けて、空調設備の受注が増えている。ただし、冷媒配管の仕入価格が上昇しているため、今後の採算悪化には注意したい」(電気機械器具卸売業)、「例年より早い梅雨入りの影響で野菜の価格が上昇しており、採算は悪化。加えて、食用油や小麦粉などの値上げが続いており、今後の懸念材料となつている」(飲食料品卸売業)

【小売業】「巣ごもり需要で盛況だった前年同月と比較すると客単価が落ちており、売上は悪化」(総合スーパー)、「車の遠出を避ける消費者は依然として多く、ガソリンの売上は低調。また、原油価格の上昇が収益に影響してきている」(石油製品販売業)

【サービス業】「コロナ禍で、企業からの非接触システムや省力化システムの受注が増えており、売上は改善」(ソフトウェア業)、「地域の飲食店支援策もあり、テイクアウト利用が売上の半分を占めた。今後もテイクアウト向けメニューを充実させ、利用客の増加を図りたい」(飲食業)

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
1月	▲49.5	▲27.1	▲48.5	▲49.0	▲49.5	▲64.7
2月	▲46.8	▲24.9	▲44.8	▲47.7	▲45.8	▲63.0
3月	▲35.3	▲18.4	▲33.6	▲35.0	▲33.9	▲48.5
4月	▲25.3	▲15.5	▲24.1	▲27.0	▲23.5	▲33.5
5月	▲25.0	▲18.9	▲15.0	▲23.9	▲31.6	▲33.5
6月	▲26.7	▲19.8	▲14.6	▲25.8	▲41.8	▲30.6
見通し	▲26.8	▲22.7	▲18.4	▲28.8	▲35.7	▲29.6

柏の景気情報 (令和3年6月の調査結果のポイント)

★調査結果のまとめ

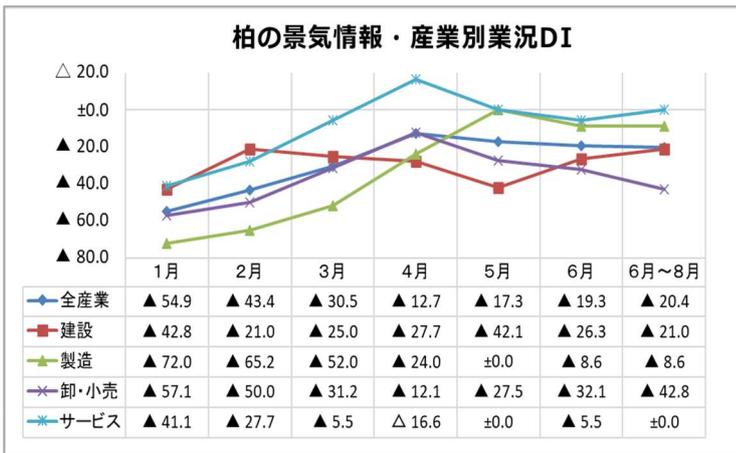
調査期間：令和3年6月25日～7月8日 調査対象：柏市内129事業所及び組合にヒアリング、回答数88件

全産業DIは2か月連続で悪化。まん延防止等重点措置の規制除外になるも、感染症動向に強い懸念あり

6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲19.3(前月水準▲17.3)となり、マイナス幅が2.0ポイント拡大した。

柏市は6月21日にまん延防止等重点措置のエリアから外れた状況下、DI値が改善した建設業からは、公共工事の安定した受注、営業努力による売上増加、在宅勤務増加による新築需要についてコメントがあった。DI値の悪化したその他の業種からは、特に製造業の多くで原材料の高騰や半導体不足、ホテル業からは昨年のGotoトラベルのような施策なく苦戦の声があった。

先行きDIは▲20.4(前月比▲1.1)と悪化を見込む。再びまん延防止等重点措置の対象区域となり、感染症動向に先行き不透明感は強い。



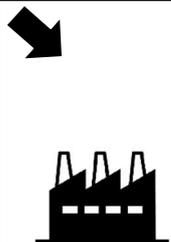
★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化



建設業

「公共工事関連の工事が多いのでコロナの影響は少なく、営業努力によって昨年度より売上が増加(塗装工事)、「在宅勤務が増え新築需要が増加(職別工事)、「職人が体を壊し景況悪化。量工場内の機械化を真剣に検討(畳)、「ウッドショックによる木材高騰に加え、オリンピック時期になると、毎回、原油や鋼材の値上がりがあり、経営への負担が大きい(とび)、「今は政府が中小零細企業を応援してくれているが、応援が切れた時が一番問題。その時は必ず来るので、少々のブレーキにひるまないアクセルが必要だと思う(一般土木建築工事)



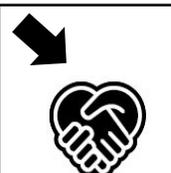
製造業

「設備投資に予算が回ってきた感じがあるが、中国経済・EV・5G・半導体の好調と発展途上国のコロナの影響で、原材料は高騰、半導体は不足し、注文通りの生産ができない(機械・同部品)、「飲食店の酒類提供自粛が響き、一部の製造ラインを停止し、昨年4～6月以来の「自宅待機」を実施。雇用調整助成金の申請を予定。酒類提供が再開されたが、なかなか先は見えない(酒類)、「一部製品で受注が増加しているが、材料調達が難しく納期遅延に。新入社員を迎え、よい緊張感が出てきた。5S活動を進め収益改善につなげたい(金属製品)、「自動車関連は半導体不足により大幅な減産。原材料高騰。人材不足、生産性拡大、デジタル化、働き方改革、BCPなど課題は山積み(金属素形材製品)、「原油の相場により原料の値上げが続いている(プラスチック製品)、「底は脱し右肩上がりに。オリンピック開催中・後のコロナの影響が心配。ワクチンに期待(鉄鋼)、「昨年4～5月の売上に比べ今年は大分回復したが、コロナ以前と比べるとマイナス。働き方改革法の対応の為、昨年からペーパーレスやIT化、情報の共有化等、生産性向上を目指し業務改革を進めているが、対応できる社員とできない社員が分かれてしまった。コロナも影響し、できない社員にとっては大きなストレスが感じられる(自動車付属品)



卸・小売業

「規制が外れて飲食店を中心に活気が戻ってきたが、感染者増加による規制の繰り返しが心配(各種商品小売)、「原材料の値上げが続くが、特に鶏卵の高騰が影響大(洋菓子店)、「好調だった前期に比べて減収(建築材料卸売)、「飲食店の復活の兆しがみえない。テイクアウトや量販店への販売は堅調でバランスを保っている。使える補助金は活用していきたい(農畜産物・水産物卸売)、「自粛環境と梅雨時の悪天候により、厳しい状況(各種食料品小売)、「コロナが終息しても生活パターンは異なるものになる。外出は減るだろうし、飲食店へ行く機会も減る。中途半端な仕事をしていたのでは生き残れないと感じている(各種食料品小売)



サービス業

「修学旅行の延期により、夏期講習の日程を急遽変更。また、オリンピックで柏の葉運動場が使えず子どもたちの大会予定が変更になるなど、生徒や親が振り回されている(学習塾)、「好調な会社と不調な会社が明確に分かれてきた。全体としては、少しずつ悪い(税理士)、「出張減少による宿泊減、酒類提供の自粛、宴会、レストランの利用減が響き、売上は昨年とほぼ変わらず。ワクチン接種状況により利用客の増加は見込める。昨年はGotoトラベルで国内観光客の宿泊増加が見られたが、今年度は代わるものがなく苦戦(ホテル)、「反響数が多く、販売も好調。市場としては売り物件が減少し、価額も値上がり気味(不動産管理)、「賃貸住宅の解約案件が増加、今期春までの活気なし。今月1本の借入が終了。キャッシュポジションを厚くしたいが、売上伸び悩み(不動産賃貸・管理)「お酒提供の制限がある中での飲食店の営業は死活問題で、休業とはほぼ同様な状況(日本料理)

★全国の商工会議所早期景気観測調査(CCI-LOBO)との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲19.3に対し、「CCI-LOBO」が▲26.7で柏の方がマイナス幅が7.4ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、卸小売業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業である。